

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/6)

学部・学科	総合社会学部・総合社会学科	職名	准教授	氏名	ナガサキ テツ
学歴	昭和56年 3月 東京大学法学部政治学科卒業 昭和57年 3月 東京大学教養学部教養学科研究生修了				
学位	法学士				
専門分野	宗教、チベット仏教、生命論				
専門資格					
所属学会	International Association for Tibetan Studies 人体科学会 日本トランスパーソナル心理学・精神医学会				
受賞	平成20年11月 人体科学会 第2回湯浅賞受賞				
担当 授業科目	学 部 心と宗教、総合社会特殊講義A、初年次演習、総合社会学演習1、現代社会研究演習1-4、表現 発信系演習6				
	論文指導 (卒論 : 8名)				
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数	
	心と宗教	講義・演習・実習・実験	春・秋	89名	
	授業の概要： エネルギー体系、生活様式、体験、世界像の変遷を主軸に、比較宗教学的な 観点から、主要な宗教について概観した。また、ポスト宗教の時代である現代において、 宗教的なものが持つ意義について、脳科学、心理学などの観点から考えるとともに、死生 学に触れ、初歩的な瞑想の実修を行った。				
	教育活動の振り返り： 受講者はおおむね熱心で、コメントカード、レポートから学ぶことも多かった。前回授 業のコメントへの応答をもとに授業を展開する方法は、有効だとあらためて感じた。また 実修を含む授業展開への反応はきわめてよかった。				
	教育活動の成果： 期末レポート、コメントカードからは、エネルギー体系の移行、変化（あるいは差異） と世界観の間にある関係、およびポスト宗教の時代における霊性について、多くの受講者 がある程度の理解を得、あるいは熟考した様子が見え、所期の目的をほぼ達するこ とができた。				
	今後の課題： コメントカードからは、死についての強い関心が見られる。今後、死生学の内容を もう少し敷衍するのがいいかもしれないと考える。				
	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数	
	表現発信系演習	講義・演習・実習・実験	春・秋	約15名	
	授業の概要： ポジティブ心理学をもとに、世界に向き合う姿勢を吟味し、変化させる。こ の土台の上に、ヨガ、瞑想の実修を行う。また、脳科学の観点から、理解する。				
	教育活動の振り返り 教育活動の成果： ヨガ、瞑想にはじめは慣れないため、恥ずかしがる場面も見られた。だが、コメントカ ード、レポートからは、3か月の間に全員のQOLが向上したことが読み取られ、所期の目的 は達成されたと考える。 今後の課題： 学期中、3回のレポートを課したが、自己観察、自省し、それを文字にして表現する機 会を増やす点から、もう少し回数を増やす方がいいかと考えている。				

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/6)

F D 活 動 ・ 教 育 実 績	・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 学内の研修会への参加。 平成26年 6月18日 2014年度 第1回人権研修会「私たちの身近な暴力 ～その一つとしてのDV～」(大学・短大の人権委員会共催) 平成26年11月19日 2014年度 第2回人権研修会「共に創り、共に楽しみ、共に生きる ～東九条マダンの試み～」(大学・短大の人権委員会共催) ・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等 正規時間外における学生指導(修学、就職、卒論指導ほか) 学外(京北町)の有機・無農薬田んぼ、畑における農業実習、バーベキュー。 上記の収穫物を素材にする調理・食事会。
H26 年度 研究課題	- チベット仏教・医学の生命論 - 聖地論 - 瞑想の科学研究(神経科学、遺伝学、音響学) - スピリチュアル・ケア
平成二十六(2014)年度の 研究活動の概要	「ユトク・ニンティク」の密教体系における夢診断の概要についてまとめ、アーユルヴェーダ学会で発表した。後述:(学会報告、学会活動)1 発表はきわめて好評であり、講演のオファーを受けている。また、医学にかかわる「ニンティク」文献の内容について、口頭伝承、参与観察を含めた実地調査、研究を行い、特に悟りの内実である「虹の身体」について論文をまとめた。後述:(論文)1 - 時間および費用の制約から、あまり進展しなかった。 - 課題となる3つの科学の観点から瞑想の実験研究(予備実験を含む)を行った。そのうち倍音声明瞑想の音響学的研究については大きく進展し、2015年3月に論文として発表した。後述:(論文)2 また、瞑想の脳科学研究については、国際学会で招待講演を行った。後述:(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)3 きわめて好評であり、欧米、東南アジアの諸国における講演のオファーを受けている。 2014年5月に、UPAYA Instituteでの研修(Being With Dying)に参加するとともに、2015年度の日本でのBWD開催の準備、科学研究のオーガナイズを行った。その一環として、11月にシンポジウム「死とより良く向き合うために」で講演を行い、またシンポジストとして議論に参加した。後述:(学会報告、学会活動)2・3 さらに「死の臨床研究会」に参加した。
平成二十六(2014)年度の 主な研究成果等	(著書) (論文) 「虹の身体」、単著、平成27年3月、身心変容技法研究会 身心変容技法研究第4号(pp.82-88) 「倍音声明の音構造」、共著、平成27年3月、共著者:加藤雅裕・安本義正、身心変容技法研究会 身心変容技法研究第4号(pp.89-97) “Dancing and fighting for an ‘enlightened society’”、単著、平成27年3月、Journal of Ritual Studies, 2014 (学会報告、学会活動) 「チベット医学の夢診断」、単独、平成26年10月、日本アーユルヴェーダ学会、倉敷 「死とより良く向き合うために —伝統的知恵をターミナルケアに活かす」(シンポジスト)、平成26年11月、「死とともに生きる」プロジェクト、武蔵野大学 「現代社会における仏教のスペクトラム: Upaya InstituteとMind and Life Instituteが切り開いたもの」(講演)、単独、平成26年11月、シンポジウム「死とより良く向き合うために —伝統的知恵をターミナルケアに活かす」、武蔵野大学 「脳科学を超えて」(学会発表+シンポジウム、人体科学会、2014年11月29日、京都)

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/6)

平成二十六(2014)年度の主な研究成果等	(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等) 監訳： 1. 『チベット医学2』、平成27年1月、国際伝統チベット医学研究院 (IATTM) 89p 学術講演： 1. 「21世紀の瞑想する脳科学」(招待講演) 平成26年6月、駿台予備校生物科 2. 「瞑想する脳科学3」(招待講演) 平成26年7月、共創館 3. “The Neuroscience of Meditation: What you can understand, and what you cannot” (招待講演) 平成26年12月、Congress of TTM 4. 「祈り、瞑想、慈悲の脳科学」(招待講演) 平成27年1月、日本仏教心理学会 第30回関西勉強会、龍谷大学大宮キャンパス 5. 「瞑想する脳科学4」(招待講演) 平成27年3月、福岡アクロス (調査活動) 平成27年 9月 チベット仏教ニンマ派に伝承されるゾクチェンの見解、修行を学ぶ「昭63.4より」 平成27年12月 ネパール、インド在住のチベット師僧から、伝授、口伝を受ける「平2.4より」 (学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含) 平成26年度-平成28年度 科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金(基盤研究C・一般)「チベット医療と仏教の生命論 —『ユトク・ニンティク』の研究—」(課題番号26370073) 研究代表者 (学内活動) 人権委員会委員、公開講座委員会委員、臨床物語学研究センター会議委員
平成二十六(2014)年度に社会における活動	(NPO法人等の団体への参画) ・ 京都チベット医学研究会代表「平21.5より」 (その他) 平成26年10月 平成26年度京都文教公開講座「京都文教教養講座」・総合社会学部テーマ：「ひびく、つなぐ、むすぶ」講師、「死とともに生きる ～スピリチュアル・ケア事始め～」於：京都文教大学
平成二十一～二十五(2009～2013)年度の主な研究成果等	(著書) 1. 「永沢哲」共著、平成22年5月、筑摩書房、『高橋悠治 対談選(ちくま学芸文庫)』(pp.379-415) 2. 『瞑想する脳科学(講談社選書メチエ)』、単著、平成23年5月、講談社、308p (論文) 1. “Eaten by Primordial Wisdom: transmutation of the physical body in the Rdzogs chen tradition” 単著、S.Craig et al., Studies of Medical Pluralism in Tibetan History and Society, IITBS, 2010, pp.235-253 2. 「タントラ、脳科学、死 —タントラ仏教と自己変容のパラダイム—」、単著、平成22年5月、人体科学学会 『人体科学』第19巻第1号 (pp.37-44) 3. 「仏教瞑想と脳科学」、単著、平成23年7月、科学研究年報誌『身心変容技法研究』第1号(pp.72-81) 4. 「惑星的思考へ」、単著、平成24年9月、日本トランスパーソナル心理学 / 精神医学会学会誌トランスパーソナル心理学 / 精神医学第12号第1巻 (pp.10-29) 5. 「竜のヨーギ」、単著、平成25年3月、身心変容技法研究会 身心変容技法研究第2号 (pp.52-61) 6. 「いのちとこころ —チベット仏教の生命 —意識論—」、単著、平成25年3月、京都大学こころの未来研究センター こころの未来 (pp.24-27) 7. 「太陽と月の和合 —チベットのヤントラヨーガ—」、単著、平成25年5月、人体科学学会 人体科学第22巻第1号 (pp.1-8) 8. “The meditative neuroscience of the 21st century and the paradigm of “self-transformation””、単著、平成25年9月、Journal of Traditional Tibetan Medicine, vol.4,2013 (pp.30-35) 9. 「空を飛ぶ女 —後期密教におけるフェミニンなもの—」、単著、平成26年3月、身心変容技法研究会 身心変容技法研究第3号 (pp.36-46)

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (4/6)

平成二十一〜二十五 (2009〜2013) 年度の主な研究成果等

(論文 つづき)

10. 「無人称、惑星総幸福、意識の光」, 単著、平成26年3月、日本トランスパーソナル心理学 / 精神医学会 トランスパーソナル心理学 / 精神医学会第13号第1巻 (pp. 34- 39)

(学会報告、学会活動)

学会発表 :

1. 「脈管、風、精滴」, 単独、平成21年12月、人体科学会第19回年次大会、筑波大学
2. 「惑星の思考と伝統の知恵」(基調講演) 単独、平成23年12月、日本トランスパーソナル心理学・精神医学会第12回学術大会、関西大学
3. 「死とともに生きる」, 単独、平成25年11月、日本トランスパーソナル心理学 / 精神医学会学術大会、同志社大学

シンポジウム :

1. 「Sitting on the Genes —21世紀の瞑想の脳科学—」(発表およびパネリスト) 共同、平成22年2月、平成20-22年度科学研究費補助金・基盤研究B「脳神経倫理学の理論的基礎の構築」プロジェクト (課題番号 : 20320001・研究代表者 : 廣野喜幸) 東京大学
2. 「惑星総幸福と一人称の科学」(単独講演 + シンポジウム) 共同、平成24年10月、日本トランスパーソナル心理学 / 精神医学会第13回学術大会、京都文教大学

(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)

学術講演 :

1. 「チベット仏教の死の教え —どのように死を迎えるか—」(単独講演 + シンポジウム) 平成24年4月、ヒューマンバリュー総合研究所 第2回ヒューマンバリュー・シンポジウム、国際文化会館
2. 「21世紀の瞑想の脳科学」, 単独、平成24年6月、駿台学園生物科講演会、駿台予備校市谷校舎
3. 「21世紀の瞑想の脳科学」, 単独、平成25年5月、駿台学園
4. 「21世紀の瞑想の脳科学」, 単独、平成25年7月、電気ビル共創館 (福岡)
5. 「21世紀の瞑想の脳科学2」, 単独、平成25年12月、電気ビル共創館 (福岡)
6. 「惑星総幸福と自己変容のパラダイム」, 単独、平成25年12月、霊性フォーラム、同志社大学

監訳 :

1. 『クニエ1』, 平成21年8月、京都チベット医学研究会、120p
2. 『クニエ2』, 平成22年6月、国際伝統チベット医学研究院 (IATTM) 65p
3. 『クニエ3』, 平成23年11月、国際伝統チベット医学研究院 (IATTM) 142p
4. 『サチェ —チベットの風水—』, 平成23年11月、国際伝統チベット医学研究院 (IATTM) 101p
5. 『チベットの夢技法』, 平成25年1月、IATTM (国際伝統チベット医学研究院) 121p

翻訳 :

1. 『癒し のダンス —「変容した意識」のフィールドワーク—』, 共訳、平成24年5月、講談社、466p

国際公開シンポジウム :

1. 「チベット医学とスピリチュアリティ —瞑想と癒し—」(企画公開講演会 司会・コメンテーター) 共同、平成22年7月、京都文教大学人間学研究所共同研究プロジェクト「福祉に生かす代替療法」, 京都文教大学
2. 「瞑想の脳科学 —慈悲、自覚、死の光明—」(講演・シンポジウム) 共同、平成23年年11月、ヒューマンバリュー研究所主催シンポジウム「21世紀の心の科学」, 国際文化会館 (東京)
3. 「歌って、踊って、人助け —ポスト3.11の社会と文明—」(講演・シンポジウム) 共同、平成23年12月、船橋市民文化ホール

エッセイ :

1. 「赤子が落ちる —奇跡について—」, 単著、平成22年1月、ビイング・ネット・プレス、地球人№ 14 (pp. 18-23)
2. 「カラハリの気功師たち」, 単著、平成24年11月、ビイング・ネット・プレス、地球人17号 —シャーマニズムと癒し— (pp. 18-23)

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (5/6)

平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等	(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等 つづき) 3. 「チベット 精霊の香り 異種間コミュニケーション論」、単著、平成25年9月、ピーニング・ネット・プレス、地球人№18号 特集：香りと癒し (pp.12-17)	
	(調査活動)	
	昭和63年 4月	チベット仏教ニンマ派に伝承されるゾクチェンの見解、修行を学ぶ「現在に至る」
	平成 2年 4月	ネパール、インド在住のチベット師僧から、伝授、口伝を受ける 「現在に至る」
平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等	平成21年 4月	チベット仏教現地調査、於：インド「平22.3まで」
	平成23年 8月	シャンシュン研究所 (イタリア・トスカナ州) における文献研究 (京都文教大学海外出張助成)
	平成24年11月 平成25年 4月・ 7月・ 8月	チベット仏教におけるヤントラヨーガの現地調査、於：スペイン 旧石器時代から新石器時代の移行期における聖地について考えるための現地調査、於：宮崎県 (日向、高千穂) 北海道羊蹄山およびスロヴァキア
	平成25年 8月	チベット仏教、医学の現地調査、於：イタリア チベット仏教ニンマ派に伝承されるゾクチェンの見解、修行、およびチベット医学の臨床 (外的治療法など) を学ぶ「昭63.4より」
平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等	平成25年12月-平成26年 1月	チベット仏教、医学の現地調査 (於：ネパール)。ネパール在住のチベット師僧、医師から、伝授、口伝を受ける。「平2.4より」 またタイにおいて中国伝統医学と身体技法にかかわる調査を行った。 (科学研究費補助金課題番号23520089：後述)
	(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)	
	平成23年度-平成25年度	科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金 (基盤研究C・一般) 「チベット医学と仏教の生命論 ―臨床、身体技法からのアプローチ―」 (課題番号23520089) 研究代表者
	平成25年度	科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金 (基盤研究A・一般) 「身心変容技法の比較宗教学 ―心と体とモノをつなぐワザの総合的研究―」 (課題番号：23242006、研究代表者：京都大学・こころの未来研究センター・教授 鎌田東二) 研究協力者
平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等	(学内活動)	
	平成21年 4月	広報誌編集委員会委員「平22.3まで」 国際交流委員会委員「平23.3まで」 入試実行委員会委員「平22.3まで」 人間学研究所所員「平23.3まで」 研究員派遣調整委員会委員「平22.3まで」
	平成22年 4月	宗教委員会委員「平25.3まで」 人間学部研究報告編集委員会委員「平24.3まで」
	平成24年 4月	共通教育委員会委員「平25.3まで」 宗教委員会委員「平25.3まで」 人権委員会委員「現在に至る」
平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等	平成25年 4月	公開講座委員会委員「現在に至る」
	(NPO法人等の団体への参画)	
	平成23年 4月	ASIA Japan 代表「平26.3まで」
	平成21年 5月	京都チベット医学研究会代表「現在に至る」

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (6/6)

平成二十一 ～二十五 の社会にお ける活動 (2009～2013) 年度	(その他)	
	平成21年7・8月	京都チベット医学研究会主催「チベット医学講座」(講師) 於：京都文教大学
	平成21年11月	京都文教公開講座「死からみた生の輝き」：講師「虹の身体の教え」、於：京都文教大学
	平成21年12月	東京大学大学院 科学史・科学哲学研究室「チベット仏教と脳神経科学」(講義)
	平成22年 1月	京都文教大学人間学研究所主催 耳学問榎島亭vol.9「インド経由チベット行きの舟」、於：京都文教大学
	平成22年 5月	講演「21世紀の瞑想の脳科学」、於：東海大学医学部
	平成22年11月	講演「チベットの霊性」、於：日蓮宗社教会